

福岡市における特定原材料の検査結果（平成 15—29 年度）

保健科学課 浜崎 志帆・宮崎 悦子・日高 千恵

第 55 回全国衛生化学技術協議会年会

本市では、平成 15 年度に、小麦の混入したビーフンによる健康被害が発生したことをきっかけに特定原材料の検査を開始した。平成 15 年度から平成 29 年度までに 702 検体の特定原材料の検査を行い、50 検体がスクリーニング検査陽性と判定された。当該 50 検体のうち、小麦 4 検体、卵 2 検体、乳 1 検体及びえび・かに 1 検体の計 8 検体については確認検査を実施した。そのうち、6 検体は陽性であったが、小麦 2 検体は陰性となった。当初は卵及び小麦の 2 項目で始めた検査であるが、平成 28 年度より毎年 7 項目全ての検査を実施しており、今後也表示の適正化のために検査体制を強化していきたい。